

第622回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. モノレール旭橋駅周辺地区第一種市街地再開発事業

那覇市泉崎

モノレール旭橋駅周辺地区第一種市街地再開発事業は、モノレール旭橋駅と那覇バスターミナルが立地している特性を活かし、県都・那覇市の玄関口にふさわしい顔づくり、賑わいづくりなどを図るため、安全・快適な歩行者空間の整備とバスターミナルの利便性を向上させることで、交通結節点機能を強化し、また都市活動、都市生活を支えるための業務、商業、宿泊等多様な都市機能を導入することを目的に実施しています。

人、もの、情報の交流拠点の創造、観光と都市生活の融合、交通結節点の再構築、環境との共生、融合、調和などを目標に掲げ、県都として相応しい都市形成の実現を目指しています。

(視察キーワード：都市計画、地域活性化等)



2. 沖縄都市モノレール延長整備事業

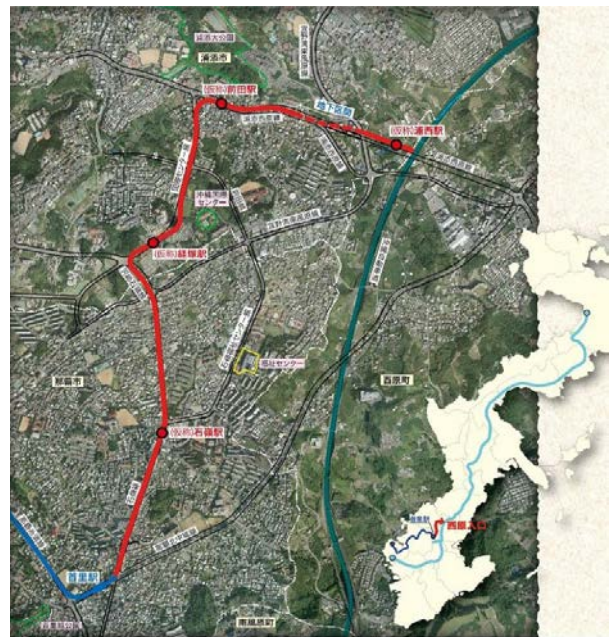
那覇市首里汀良町～浦添市前田

増大する自動車交通需要等により、公共交通機関へ転換促進する公共交通システムの構築が課題である中、ゆいレール乗客数は年々増加しており、地元客の利用促進に取り組むとともに観光客の受入体制を強化する必要があります。このため、都市の健全な発展と連携・交流を促進し、高齢化社会や地球環境問題等に対応した、自動車等とモノレールを基軸とした公共交通が共存する沖縄らしい戦略的な交通体系整備が強く求められています。

このような中、県土のバランスある発展に寄与する骨格道路網の整備推進と併せて、沖縄本島の定時定速の公共交通ネットワークを形成することが極めて重要であるとの認識にたち、当初計画で位置づけられた首里駅から沖縄自動車道（西原入口）までのモノレール延長に取り組むこととし、首里駅～てだこ浦西駅までの約4.1kmの間に4駅を整備しています。

ゆいレールと高速道路を結節することにより、中北部地域を含めた定時性の公共交通ネットワークが構築されることで、移動時間が短縮されるとともに交通渋滞が緩和されます。また、駅を中心としたまちづくりが促進されることで、新たな観光回遊ルートが地域の発展に寄与し、沖縄観光の魅力の向上につながることを期待されます。モノレールを整備することで、地球温暖化防止を目指し、温室効果ガスの削減にも寄与するとともに、住んでいる場所に関係なく、高齢者・障害者・子供たちまで全ての人に公共交通機関としてもやさしい交通手段となります。

(視察キーワード：都市計画、環境保全、地域活性等)



3. 一般国道58号 浦添北道路

浦添市港川～宜野湾市宇地泊

浦添北道路は、沖縄本島西海岸中部の読谷村から南部の糸満市に至る約50kmの地域高規格道路である沖縄西海岸道路の一部を形成し、浦添市西海岸を縦貫する全長2km、設計速度80km/hの自動車専用道路です。当道路は、交通渋滞緩和や那覇空港・那覇港へのアクセスの向上、那覇都市圏の交通混雑緩和を目的に計画された2環状7放射道路として、浦添市周辺の渋滞緩和・地域交流の促進に寄与する道路として計画されました。浦添北道路の整備により、浦添市内の通過交通を浦添北道路へ誘導することによって、国道58号沿線に展開する商業施設等へのアクセス交通の利便性を高めることが可能となります。また、浦添北道路は、中部方面からの交通を当該地区内に呼び込む役割を担う道路として位置付けられており、広域的な交通インフラの一部として広域からの来訪者の誘因の役割が期待されています。

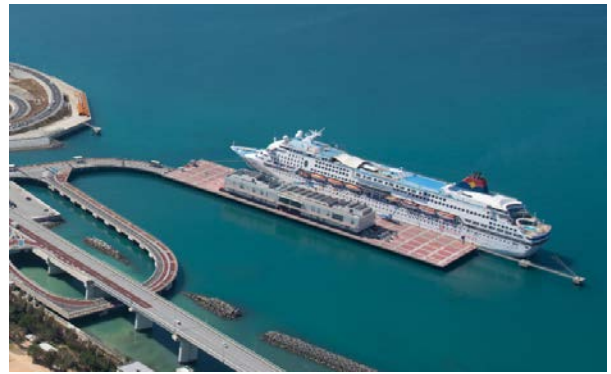
(視察キーワード：地域活性、物流機能の効率化等)



4. 旅客船ターミナル整備事業（那覇クルーズターミナル）

..... 那覇市若狭

沖縄県の自立的経済発展のリーディング産業として観光産業が位置づけられており、そのなかでも、国内外からの大型クルーズ船を利用した観光の進展は、今後、ますます期待されています。その反面、大型外航クルーズ船が定期就航しているにもかかわらず、観光客を受け入れる専用の岸壁やターミナルがなく、貨物を扱う岸壁を利用している状況であったため、沖縄の観光イメージの低下のみならず、人と貨物が混在することによる安全性への懸念や荷役作業効率の低下など問題となっていました。訪れる観光入域客数も700万人を超え、外国人観光客も増加しています。さらなる誘客促進を図るために国際海洋リゾート地形成に向けて「那覇港まちづくりマスタープラン」を作成し、泊ふ頭周辺を「外国客船と親しむゾーン」として位置づけて、「万国津梁の浪漫あふれる交流のみなとづくり」エリアとして、国内外を結ぶ大型クルーズ船の寄港・就航を促進する那覇クルーズターミナルの整備を下記の5項目を柱に掲げ、実施しています。



- ①観光客・県民が憩い・賑わえる「交流・観光拠点となるターミナル」
 - ②迅速な入出国等手続や観光情報等のサービス機能の確保など、快適性に優れ、多様な利用ができる「多機能ターミナル」
 - ③沖縄の海の新しい玄関口にふさわしい「シンボルとなるターミナル」
 - ④外国人観光客の利便性を高める「C I Q 機能完備のターミナル」
 - ⑤誰でも利用しやすい「ユニバーサルデザインのターミナル」
- 旅客ターミナルは、2階が主に出入国、税関審査等のためのスペースとなり、1階はエントランスホール、インフォメーションコーナーを設けました。屋上部分は、クルーズ船からの視点場を想定し、歓迎セレモニーが行える空間構成となっています。クルーズ船が寄港しない場合は、2階部分は多目的ホールとして各種イベント等に活用できるようにしています。
- （視察キーワード：ストック効果、地域活性等）

5. 那覇空港滑走路増設事業

..... 那覇市大嶺崎地先

那覇空港は、沖縄の玄関口として国内外各地を結ぶ拠点空港であり、県内離島と沖縄本島を結ぶハブ空港としても重要な役割を果たしています。また、那覇空港は、沖縄県のリーディング産業である観光・リゾート産業のみならず、生活物資の輸送や県産農水産物の出荷等を通じて県民生活や経済活動を支える重要な社会基盤であります。近年、沖縄県を訪れる観光客は年々増加しており、それに伴い那覇空港では、夏場の観光シーズンや年末年始のピーク時を中心に、希望する時間帯の便の予約がとれないなどの状況が生じており、那覇空港の将来対応方策についての検討が重要な課題となっております。現在、那覇空港の沖合約160haを埋め立て、現滑走路から1,310mの位置に、長さ2,700m、幅60mの滑走路1本を増設する拡張工事を実施しています。滑走路増設事業の総事業費は約1,993億円で、年間発着枠は現在の約13.5万回から約18.5万回に増加する見通しとなっています。現在の那覇空港は3,000m滑走路1本を旅客機と貨物機、自衛隊機が共用しており、観光シーズンなどは混雑や遅延が目立ち容量が限界に近づいていました。このような中、那覇空港の将来整備のあり方について「那覇空港の総合的な調査」を実施し、調査結果を県民に公表し広くご意見をいただく「パブリック・インボルブメント（P I）」の手法を取り入れながら進めてまいりました。構想段階、施設計画段階、環境アセスメント調査を経て、航空法、公有水面埋立法等の手続きを行い平成26年1月より現地着手しています。現在、海上での護岸工事とともに、連絡誘導路部の埋立工事を実施中ですが、平成32年3月の供用を目指して鋭意工事を進めています。



（視察キーワード：住民参加、環境保全、地域活性等）